

## 「豊かな学力の育成」

－「学びの共同化」を図り、意欲的に学び合う子どもをめざして－

### I 研究の内容

#### 1. 研究仮説

論理的な思考活動を重視した「学びの共同化」を図ることによって、意欲的に学び合う子どもが育つであろう。

#### 2. 主題設定の理由

本校では一昨年度より、子ども同士、あるいは子どもと教師と一緒に課題を追究していく学び合いの活動を「学びの共同化」と称し、そこに視点を当てた研究を進めてきた。その結果、課題を把握し、自分の力で考え、その考えを自分なりの表現方法で書くこと、それを友達と交流し合いながら気づき、理解していくという学習の流れは定着してきた。

しかし、さまざまな能力や考え方をもった子どもたちが、それぞれの良さを生かして十分に意見を交流し、考えを深めていくことには難しさを感じる場面がある。そのため話し合いの仕方や、多様な意見をまとめる教師の支援の仕方が課題として残されていた。

そこで、本年度も「学びの共同化」についての研究を継続しながら、特に、子ども同士の話し合いの場面に焦点を当て、論理的な思考を重視した活動を取り入れた指導方法の研究を進めてきた。

#### 3. 研究の具体的内容と方法

(1) 学習アンケートの調査と分析：5月 1月

(2) 理論研究（学びの共同化、論理的な思考活動について）

(3) 検証授業

- ・低中高各ブロックより1本ずつの全体公開授業 計3本
- ・低中高各ブロックより1本ずつのブロック内公開授業 計3本
- ・全員一人一実践の公開授業

\*研究会の視点

○論理的な思考活動を重視して、学びの共同化が図られていたか。

- ・問題意識を持たせるような適切な課題であったか。
- ・授業の中で協同的な学びの場面が作られていたか。
- ・共同化の場面で論理的な思考活動が見られたか。
- ・共同化を成功させるための教師の支援はどうであったか。

## II 成果と課題

### 1. 成果

- ・共同化を取り入れ意識していくことで、学び合うスタイルが深まりつつあり、子どもたちにも、聴き合う、伝え合う力がついてきたと感じられる。
- ・子どもたちがグループで意見交換したり、教え合ったりしながら共に学ぶ楽しさを実感できるようになった。
- ・論理的な思考を重視した話し合い活動を行うことで、子どもたちが自分の考えを整理し、理由や根拠のはっきりした意見を持ち、わかりやすく伝えようとする意識が生まれてきた。
- ・論理的な思考活動について、本校なりのとらえ方を確認することができた。
  - (1) 自らの思考過程をふり返ることができる活動
  - (2) 自らの思考過程を表現することができる活動
  - (3) 思考の仕方を身に付けることができる活動
  - (4) 他者との交流を通して納得し合いができる活動
  - (5) 多様な考えの交流と関係づけができる活動
- ・国語と算数に限らず、さまざまな教科で共同化を仕組んだ授業が実践できた。

### 2. 課題

- ・共同化の成果は感じるが、話し合い活動を取り入れた場合、どうしても時間がかかってしまう。
- ・考えを練り合わせていくところまでは、さらに指導が必要。
- ・論理的な思考活動を重視した場合、子どもたち一人ひとりの基礎的な学力や考える力の差がネックとなる。基礎基本の徹底が必要。

## III 成果物

### 1. 全体公開授業

第1学年	生活科	「みんな だいすき」	授業者：小泉 昭美教諭
第4学年	理科	「電気の働き」	授業者：廣瀬 哲也教諭
第5学年	国語	「伝え合って考えよう」	授業者：武井美奈子教諭

### 2. ブロック内公開授業

第2学年	国語	「だいじなところに気をつけて読もう」	授業者：佐藤久美子教諭
第3学年	算数	「かけ算のしかたを考えよう」	授業者：今澤比呂樹教諭
第6学年	国語	「筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう」	授業者：橋本 尚一教諭

(研究主任 本宮 聡)